



千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 | (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

92.2.27 No3546

5万人体制の合理化粉碎へ第一歩を踏み出す



グラグラのJR総連に強烈なピンチ加える



本社・支社はグラグラの東労組を守りため多数動員、弾圧をものともせず意気高くストを打ち抜く。

(銚子支部)

安心して働ける労働条件の確保と旅客の安全を守ることは鉄道産業に働く我々の第一の使命である。この使命を果たすために全乗務員が二・二一ストライキにうって出た。
銚子支部も、折からの雪の中、八時には集合対象者のほぼ全員が民宿に結集、白い息を吐きながら意気けんこうとスト決起集会をかちとる。
準備時間が短かったがその分組合員の協力が集中的に発揮され、新鮮で堂々とストをうちぬくことができた。
集会で錦織支部長は「ダイ改の内容を検討すればするほど問題点が出てきている。にもかかわらず支社当局は、まともな団交すら行おうとしていない。現場は不安と押さえがたい噴満は高まっている。」

本日を一波にしてしまったかには闘いぬこう」と訴えられた。
待機中は、強制配転されている仲間を交えざつくばらんな話がかわされた。また緊張した中にも「〇〇さんにおめでとうただそうだ」といった和やかな温もりもつたわってくる。
このように、待機所には闘うもののみがもつ、さわやかで思いやりのあるムードがあふれていた。
乗務員分科の学習会もやりきり一四時四〇分、スト終了後の就労者を送って運転区前に行く。
そこには、あいも変わらず狩りだされた当局がウツロな目で「阻止線」をはっている。抗議をたたきつけ、今次二・二一ストが国労組合員や多くの働く仲間を激励し、インパクトを与えたことを確認し、次の闘いへの決意を固め終了した。

二月二一日、木更津支部は、本部突入指令にもとずき九二・三ダイ改阻止に向けストライキに決起した。
この日、当局は、またしても不当なスト弾圧体制を敷き、駅ホームや木更津支区の全ての入り口、さらには支区と線路をはさんで向かいがわにある保線区や電力区が入っている総合庁舎にまで対策員を配置するという始末であり、スト立ち上がりにおいても勤務開始時間を一方的に指定し、スト集約からその時間を無価値労働とするという攻撃に終始した。
木更津支部組合員は、そうした不当なスト弾圧をものともせず九時を期して次つぎにストへと突入していった。

九時二〇分、スト当該者を先に勤務以外の組合員二〇名が結集しスト突入集会をかちとっていた。
その中で、斎藤支部長が力強く「要求実現まで何んでも闘い」といった決意を述べ、続いて本部派遣山田執行委員より情勢・方針が提起された。こうして団結をためながら一四時にはスト立ち上がりの送りこみを開始し一五時には意気高く集約集会を開催し「JR総連の裏切りを断じて許さず勝利をめざしたかう」ことを確認し、九二春闘勝利への全力決起を決議し散会した。
(木更津・通信員)

社会の主人公



労働者こそ社会の主人公



久留里線はわが掌中にあり！
(ストの中で学習、木更津支部)

反戦・反核を担う労働運動を！